

さくらほっと

vol.47

平成31年春号

NEWS



无痛分娩センターのメンバー

「**无痛分娩センター**」を
開設しました。…2

消化器内科部長に片岡教授が着任 …… 4

新バージョンの病院機能評価「一般病院3」認定！

名市大病院のチカラ Vol.15 …… 3

市民公開講座・セミナーのご案内

地域医療機関と名古屋市立大学病院の地域医療連携

名古屋市立大学病院へ紹介

入院・手術等専門的な診療・検査

初期
診療

持続
治療

健康
診断

患者さん

診断が確定した・症状が安定した

かかりつけ医へ紹介(逆紹介)



かかりつけ医

風邪などの日常的な病気や症状が安定した慢性疾患などの患者を担当



名古屋市立大学病院

高度先進医療を担当

専門
診療

救急
医療

高度
医療

精密
検査

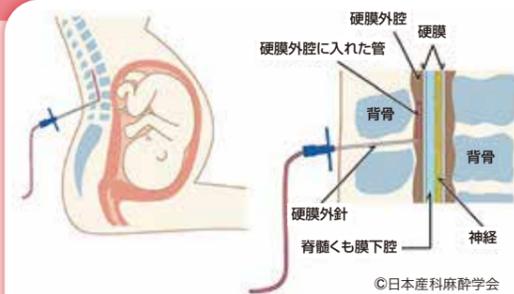
* 国の方針に基づき、地域医療連携を推進しています

無痛分娩センターでは、安全で痛みの少ない「硬膜外分娩」を提供しています。

名市大病院では、2018年12月に「無痛分娩センター」を開設しました。当センターでは、硬膜外分娩（いわゆる無痛分娩）を提供しています。東海3県で本格的に硬膜外分娩を始めた大学病院は、当院が最初です。

硬膜外分娩とは？

硬膜外（こうまくがい）分娩とは、硬膜外麻酔という下半身麻酔を使った出産の痛みを和らげる方法です（図）。わが国では、まだ硬膜外分娩は一般的ではありませんが、欧米では出産の痛みを取りたい産婦さんが麻酔を受けることは女性の権利と考えられています。「無痛分娩」と呼ばれることも多いですが、完全に感覚が無くなる訳ではなく、なるべく自然のお産に近づける出産を目指すため、当センターでは「硬膜外分娩」と呼んでいます。



産婦さんの背中から注射を行い「硬膜外カテーテル」という柔らかい管を入れます。硬膜外カテーテルより麻酔薬を入れて、お産の痛みを和らげます。

硬膜外分娩のメリットとデメリット



硬膜外分娩のシミュレーション実習

硬膜外分娩における最大のメリットは、産痛を和らげ、リラックスして出産できることです。リラックスして出産することは、産婦さんにメリットがあるだけでなく、子宮や胎盤の血流を改善させるなど、赤ちゃんにもメリットがあります。

一方、硬膜外分娩における最大のデメリットは、麻酔による事故が発生する可能性があることです。残念なことに近年は硬膜外分娩に関連する麻酔事故が社会問題化しています。事故の多くは、硬膜外分娩のトレーニングが不十分な医療従事者による不適切な麻酔管理・分娩管理が原因です。当センターは硬膜外分娩の教育施設であり、全国の模範となる安全対策を取っています。



硬膜外分娩に使用する器材の勉強会



無痛分娩センター
田中センター長

無痛分娩センター長からのメッセージ

当センターの特徴は、麻酔科医が硬膜外分娩の麻酔を行い、産科医・助産スタッフとの「チームワーク」のもと、安全で効果的な硬膜外分娩を提供していることです。多くの産婦さんに、この素晴らしい硬膜外分娩を経験していただきたいと思います。合併症のある産婦さんだけでなく健康な産婦さんの硬膜外分娩も受け付けていますので興味を持たれた産婦さんは、当院産婦人科外来でご相談の上、無痛分娩外来（麻酔科外来）を受診してください。 **お問合せ先：052-851-5511（代表）**

名市大病院のチカラ Vol.15

アイセンター



アイセンター
小椋センター長

アイセンターは2016年の開設以来、幅広い眼疾患に対応していますが、網膜硝子体疾患では国内屈指の診療・研究レベルを誇ります。網膜硝子体疾患の診断および治療効果の判定には造影剤を使用する蛍光眼底造影検査が不可欠でしたが、近年、造影剤を使用せず広い範囲の詳細な血管画像が得られる「光干渉断層血管撮影（OCTA）」が登場しました（写真1）。アイセンターでも国内で最初にOCTA機器を導入し、患者さんの負担を減らしつつ非常に質の高い診療を行っています。OCTAによる正確な診断とともに、ナビゲーション機能を搭載したレーザー（ナビラス®）を用いての網膜光凝固を施行している国内でも数少ない施設となっています。そのほか硝子体手術、薬物治療においても最新の治療を導入し、患者さんごとに適した先進的な診療を提供しています。

ロービジョン外来では視機能の低下により日常生活に支障を来している方々に対し、拡大鏡や拡大読書器などの視覚補装具の処方を行うほか、提携施設の協力のもと歩行訓練や（写真2）視覚障がい者支援の情報サービスなどを行っています。多くの患者さんとその家族からご好評をいただいております。

先進的な診断から個別化治療、そして視機能障害に対するケアとトータルサポートができるような診療を目指しています。

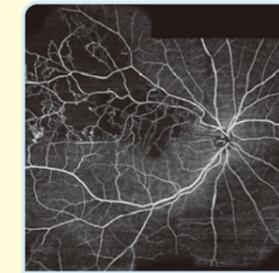


写真1：造影剤を使用せず広い範囲の網膜毛細血管が観察できるOCTA



写真2：ロービジョン外来での歩行訓練

歯科口腔外科



歯科口腔外科
渋谷部長

歯科口腔外科では全身的な疾患のために手術を受ける方へお口のサポートを行っています。事前に口腔内のクリーニングおよび必要な歯科処置を行うことで、手術の合併症一術後肺炎や感染性心内膜炎、挿管（全身麻酔）時の歯の損傷など一のリスクを減らすことができます。

同様に、放射線治療や化学療法（抗がん剤治療）を受けるがん患者さんの口腔管理も行っております。大きな虫歯や歯周病を放置したまま放射線や化学療法を行うと、歯性感染症を契機に重篤な全身感染症（菌血症や敗血症）を引き起こす危険性があります。さらに、一定量以上の放射線照射歴のある部位の歯を抜歯すると顎骨壊死を起こす危険性があります。これらのことから放射線や化学療法前には歯や歯周病の検査をし、必要であれば歯科処置を済ませておかなければなりません。患者さんの状況に合わせて、当科で治療し

たり、かかりつけ歯科へ紹介したり、治療を安全に迎えるための準備を整えます。

また、放射線や化学療法中は口腔内に重篤な口内炎などの副作用が出ることが多く、疼痛のため食事が摂れなくなることも少なくありません。その疼痛緩和および重症化予防のための口腔ケアや経過観察も行っております。

その他にも、弁膜症などの心疾患や抗血栓薬処方中の方に対する抜歯、骨髄移植予定の方の口腔管理なども行っております。退院後は、より専門的な管理が必要である場合は当院にて、症状が落ち着いたらかかりつけ歯科に紹介し、地域と連携してフォローしていきます。より安心して治療に臨んでいただけるよう、体制を整えておりますので、どうぞお役立ていただけたらと思います。



口腔ケアを行っているようす

消化器内科部長に片岡教授が着任



消化器内科
片岡部長

このたび消化器内科部長(教授)を拝命しました片岡洋望です。主に消化管(食道、胃、小腸、大腸)の腫瘍性疾患を専門にしています。当院では胆のう、胆道、膵臓、肝臓を診療する肝・膵臓内科と消化器内科は、互いに助け合いながら日々の診療を行っています。最近増加傾向のクローン病や潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患の診療にも力を入れています。外科的手術が必要な患者さんに関しては、消化器外科の先生方と緊密な連携をとりながら診断・治療を行っています。内視鏡診断・治療から外科手術、そして抗がん剤治療、免疫療法まで、患者さんから信頼される安全で高度な医療の実現を目指して頑張っております。何卒よろしくお願いたします。

新バージョンの病院機能評価「一般病院3」認定！

当院は、特定機能病院や大学病院を対象とする新バージョンの病院機能評価「一般病院3」を受審し、2018年12月7日付けで認定を受けました。新バージョンでの認定は、東海地方で第1号、全国でも2番目となります。

病院機能評価とは、日本医療機能評価機構が実施する医療機関の第三者評価であり、評価項目をもとに、各病院が自己評価と自主的な改善を行うことで、医療の質の向上を図るものです。

患者さん中心の医療の実践、医療の確実・安全な実施や支援、病院の管理・運営など、約90項目が評価されました。

今後も皆さんにとってより良い病院となるよう努力してまいります。



市民公開講座・セミナーのご案内

●市民公開講座

日付	時間	会場(定員)	診療科	講演者	内容	問い合わせ先
3月30日 (土)	16:00~ 17:00	JPタワー名古屋 (中村区名駅1丁目1-1) 3階ホール (100名) 申込締切 3/20(水)まで	産科 婦人科	教授:杉浦真弓	不育症のエビデンス	教育研究課 TEL:052-853-8077
4月21日 (日)	13:30~ 15:30	大ホール (病棟・中央診療棟3階) (300名)	呼吸器 外科	教授:中西良一 准教授:奥田勝裕	肺がん・縦隔腫瘍の 最新治療	医学研究科 腫瘍・免疫外科学 TEL:052-853-8231
5月12日 (日)	13:30~ 16:00	申込不要(先着順)	腎臓 内科	准教授:福田道雄 他	患者さんと御家族のための 腎臓病セミナー ~腎不全にならないためには~	医学研究科 心臓・腎高血圧内科学 TEL:052-853-8221
5月19日 (日)	12:45~ 13:30 13:30~ 16:00	東建ホール・丸の内 (中区丸の内2-1-33) (400名) 申込不要(先着順)	循環器 内科	准教授:杉浦知範 その他、外部講師	世界高血圧の日 高血圧市民公開講座	医学研究科 心臓・腎高血圧内科学 TEL:052-853-8221

全て参加費無料ですので、どうぞお気軽にご参加ください。